

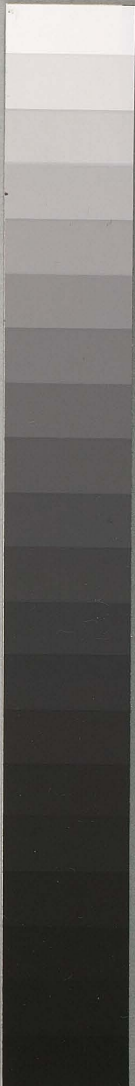
© Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Gray Scale

C Y M



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8

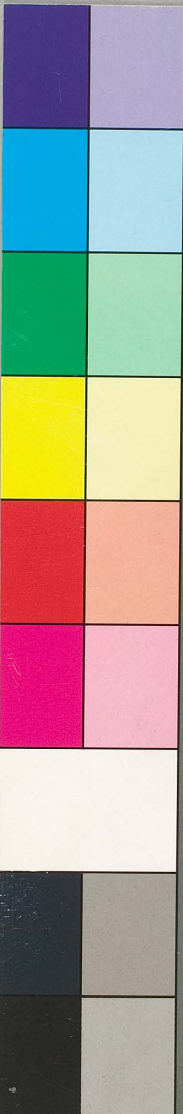
Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak
LICENSED PRODUCT



五世大德

五世大德

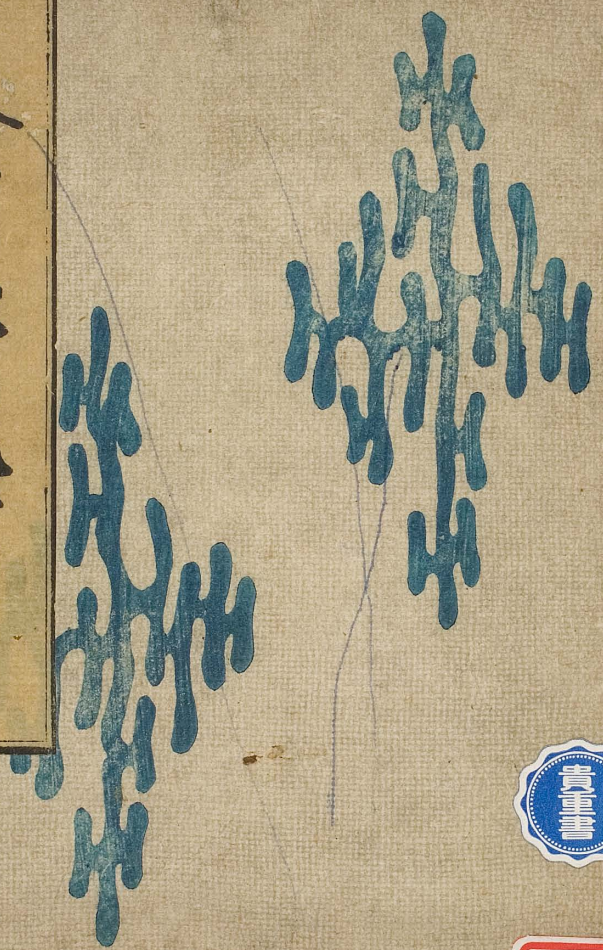
百八首頌占鈐

乾

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

百人省頭占錄

乾



武庫川女子大学図書館

昭和49年2月18日 911.147

Ka

247255

/

花崗松濤先生著

百人一首歌占鈔

全二冊

浪華

花崗藏板



百人一首歌占鈔自序

有天地之易則有人心之易
故擬之陰陽而立奇耦之象
夫將有動也擬其所立之象
以制動勿動必為而得也



易曰君子居則觀其象而
玩其辭動則觀其變而玩
其占焉蓋辭生於變爻出
於象象歸於占爻又占法
非一揲筭墨色龜卜之類漸

繁而彼世此廢者亦不能離
消是盈應之理乎茲有以
占歌者占上古渡會家次
遺風而至近世大起舒舒
既久或巧龜言而不取言風

唯小倉之集歌冠之於其
欲為祥——其用傍縣易象
以為二堂名曰百人一首歌占
鈿糸短戈世藝新——說唯
由——解——年

嘉永戊申夏五日

司天家御門人

花岡松清識



可海女花照
 寺角百王理記
 在心中

古法

此歌占のしきや昔をなす期ち百枚の短冊
 一冊あり歌をうけり小ちう結び付をわすの
 一冊探り取ればその歌のうまいをいふは昔
 とは今此と擬て百枚の式紙を用つたり此
 とのよきものを占むるなり此百枚乃多紙を
 札の上など不潔なき所へ置くなり其の
 一をわきへんて外へ告命ト籤をとるなり
 るくなくせり年の一冊探りたる歌り
 叶抄るなり占ふ是のよきなり

西行歌の素をふがれは、何のこともあはれ
 あ一音の中よりこころざしをいかにせんか、此のふたふた
 上よりこころをほらるるも、何れより何れの占るハ
 歌の素をのこさるるべし、とん、寝あきき歌占
 奥義致うけり

此百首の中歌のこころを、群をいれぬが
 きり、此の素を占るるを、何れのこと、著きい
 先書り印をうごふ、何れと、歌、其なる

百人一首歌占録目次

乾元卷

歌占大意 一丁	天智天皇 二丁	持統天皇 二丁
枳本人磨 三丁	山部赤人 三丁	猿丸大夫 四丁
中納言家持 五丁	安倍仲磨 五丁	喜撰法師 六丁
小野小町 七丁	蟬 九丁	参議 皇 九丁
僧正遍昭 九丁	陽成院 十丁	河原左大臣 十一丁
光孝天皇 十二丁	中納言行平 十二丁	在原業平 十三丁
藤原敏行 十四丁	伊勢 十五丁	元良親王 十五丁
素性法師 十六丁	文屋康秀 十七丁	大江千里 十七丁

菅

家十八丁

三條右大臣十九丁

貞信公二十丁

中納言兼輔二十丁

源宗子朝臣廿二丁

九河内躬恒廿二丁

壬生忠岑廿二丁

坂上夏則廿三丁

春道列樹廿四丁

紀友則廿四丁

藤原典風廿五丁

紀貫之廿六丁

藤原源貴父廿七丁

文屋朝康廿八丁

右近廿八丁

參議等廿九丁

平兼盛三十丁

壬生忠見三十丁

清原元輔卅一丁

中納言數忠卅二丁

中納言朝忠卅三丁

謙德公卅四丁

曾根好忠卅五丁

惠慶法嗣卅六丁

源重之卅六丁

大中臣能宣朝臣卅七丁

藤原義孝卅八丁

神之卷

藤原実方朝一丁

藤原道信朝一丁

右大將道綱母二丁

儀同三司母三丁

大納言公任四丁

和泉式部一五丁

紫式部五丁

大藏三位六丁

赤條備門七丁

小式部内侍八丁

伊勢大掾九丁

清少納言九丁

左京大夫道枝十二丁

權中納言定基十一丁

相模十三丁

大僧正行尊十三丁

周防内侍十四丁

三條院十五丁

能因法師十五丁

良暹法師十七丁

大納言經信十七丁

祐子内親王家紀伊十八丁

權中納言匡房十九丁

崇徳院廿二丁

源俊賴朝臣二十丁

藤原基俊二十丁

崇徳院廿二丁

法興寺入道前圓白太政大臣 廿二丁 源 惠 昌 廿三丁

左大臣支顯 廿三丁 待賢門院 廿四丁 道圓法郎 廿五丁

後德大寺左大臣 廿五丁 皇太后官大夫俊成 廿六丁

藤原清輔 廿七丁 俊直法郎 廿八丁 西河法郎 廿九丁

寂蓮法郎 廿九丁 皇嘉門院 三十丁 式子内親王 廿一丁

殷富門院 卅二丁 後宮極授政事太政大臣 卅三丁

二條院灌岐 卅四丁 鎮倉右大臣 卅四丁 參議雅經 卅五丁

前大僧正 卅六丁 入道兼太政大臣 卅七丁

權中納言 卅八丁 從二位兼隆 卅八丁 後鳥羽院 卅九丁

順德院 四十丁 日次尾

百人一首歌占鈔一之卷

浪華 花開松濤著

夫歌占といふは往昔歌占より後より白歌の男
斗子小弓うづひ解 短冊を引てうづひに
うづひの止まらずを待つ年々幸菊丸といふ
中人あはれ久き父のゆゑを占ひくは学のお
このかた子親しやがちけり ちやが父の
乃歌ふはより 彼男斗子二夏の太史源の
家歌ふはより 人々幸菊丸が父なるより
ふはれ 今めくはより 占ひの疑ひかな 親

かりきりうーい 淫曲うーい かく世の人をあらわすいー
 乃ものづり実をいーづつはるるも 歌のさうれこ
 この像のいー 結う小倉の百首 定家らの男房
 今う富れ又なる 中流といてに送りぬいー 際々の
 和歌うー 代々の後集おこも 歌のうーいー を授る
 うーいー 此々んうーうみー 中流うーいー あり
 海をぬいーいー かん 易う 而 謗ありこーいー 有
 こーいー 寂然とて 動うーいーいーいーいーいーいー
 うー 古角の 肯うーいーいーいー 世うーいーいーの 歌
 占と 結う 凡う 小倉百首 歌仙の 謗うーいーいーの

天智天皇

秋 北田のうのほのいりのとををを

わりうもあを 病うーいーいーいーいー

稱の 実のうーいーいーいーいーいーいーいーいーいー
 旨づきの 飯屋を 飯屋といふあり 御歌のんいーいーいーいー
 月あうーいーいーいーいーいーいーいーいーいーいー
 感涙の 神を 濡るいーいーいーいーいーいーいーいー

風地観

観ハ 主 奴ハ 主を 感ハ 主を 感ハ 主を 感ハ 主を
 惟ハ 夫を 用ハ 主を 意ハ 主を 意ハ 主を 意ハ 主を
 後ハ 必ハ 主を 主ハ 主を 主ハ 主を 主ハ 主を 主ハ 主を

ひとりねすことと徒らに困るをんやふぞ
そりなり然しあひびき山をなをるの
こづきをかり云ふを岸登といふあり

火山旅

旅ハ出た世に文をなすれ財ある
食に困中へ終るを和ら意に故に
時をわいふを煩ふのほり家を考國を離る
をばすむれまざらりとん○婿姻軍に
遺失急るる○病氣贅症○待人をう○方角を
當ハ北あり

山部赤人

たのうにうちてをなふの

あゝおきねー雪々々

般のうらハ遠江の田舎の陣より中へ
うゝるれが冬のとけりてふ二のう
白雪おきいとくあゝそれなを黄で
あり



艮為山

艮ハ遠回れの前を則犯入の
功を能る名を發する勸學用業大に宜い
婿姻平あり○失物盗まれふは疾
病重なり

積丸大夫

伊山一里七廿一

了
き
き
了
秋
了
了
了

歌のうたは散りて秋のふりやうき希あはれ
いふにそれより急すこわうききしゆぞくなり

火澤睽

倣ハ中絶疎をうくる也
慕合の如く急所を故に對

一 逐心相合むろ ちん ぐわい ぐわい 所ところの如ごとく者ものと云いふ ○ 誓ちか 姻いん 口くち 舌ぜつ の兆きざし

○失物ウツモノ出でぐー
○疾病シヤツ狂キヤウー
○待人マシゴトあゝん
○方角ホウカクを當あたふ
とんハ北きたあり

中納言家持

ふくのきりぎりすの

糸上をうねるよりあつて

禁の格にハ七月七日の夜烏鵲^{うかく}をよめ合^あハ天^{あま}の
 河^かへけをうけ織女^{おりひめ}をよめ合^あハ天^{あま}の
 事^{こと}をよめ合^あハ天^{あま}のこゝに然^{しか}ハ禁^{きん}中のこゝハ故^{ゆゑ}
 テ天上のありと違^{ちが}ハ比^ひ寸故^{ゆゑ}禁^{きん}庭の御階をうさ^うさ^うら
 のちにな^なれとてあり歌のんハ禁^{きん}庭とての迎^{むか}ひで

ぬれそつた霜のしりぎををばに夜を替結
しつ猶あきけを連てそめゆめくつて夜をわ
わつたよきなり

風水換 漢ハ替結をいふの氣なれば則ち和
ぎ調ふの意にり故に疑圓りてふもの

解後いふ今月の故も明日ハ味方あふ
あふー失物乱ちる云病氣裏こころは待人ハ
あふー方角を曲とれハ良と

安倍仲磨

あまの糸もきけとて春日なり

こうさのやうんが 月うも

仲磨入唐しつ改朝の帝明列とふ所の海辺
あふ唐人と別の酒宴を催をわう夜に入
海の面ハ月のいとせつらふをを見え福を缺
してあふ唐とハ浦の一面ハ唐さふふあり
歌のハ此唐れにそふ月をらんつて
こび月か一海んとありあふやふわう
これ三笠山しつ月を市今歌しあひ
あふ

入唐とハ学問のハ唐まのをつて



突大有

大有ハ其位ニ九ノの義ナレバ則チ
其往古ヲ忘ズ意ナリ故ニ廣
元祿ヲ治ムトシ○誓姻宜一○遺失灰一○疾病
凶ナリ○其位ニ九ノの義○待人恩義ヲ母ナク○方
角ニ面トレハ南ナリ

喜撰法師

系ハ其位ニ九ノの義ナレバ則チ
其往古ヲ忘ズ意ナリ故ニ廣
元祿ヲ治ムトシ○誓姻宜一○遺失灰一○疾病
凶ナリ○其位ニ九ノの義○待人恩義ヲ母ナク○方
角ニ面トレハ南ナリ

其位ニ九ノの義ナレバ則チ
其往古ヲ忘ズ意ナリ故ニ廣
元祿ヲ治ムトシ○誓姻宜一○遺失灰一○疾病
凶ナリ○其位ニ九ノの義○待人恩義ヲ母ナク○方
角ニ面トレハ南ナリ

其位ニ九ノの義ナレバ則チ
其往古ヲ忘ズ意ナリ故ニ廣
元祿ヲ治ムトシ○誓姻宜一○遺失灰一○疾病
凶ナリ○其位ニ九ノの義○待人恩義ヲ母ナク○方
角ニ面トレハ南ナリ



風雷益

益ハ其位ニ九ノの義ナレバ則チ
其往古ヲ忘ズ意ナリ故ニ廣
元祿ヲ治ムトシ○誓姻宜一○遺失灰一○疾病
凶ナリ○其位ニ九ノの義○待人恩義ヲ母ナク○方
角ニ面トレハ南ナリ

○方角を角とて北の方とて

小野小西

花のつらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき



火風鼎

鼎ハ其術ハ能ク義あれば財チ

歳月を年とて其の故とて其の

失物知々○疾病あり○待人遅々

○方角を角とて北の方とて

蟬丸

虫のつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

つらきつらきつらきつらきつらき

しるじい住まゝの赤うてお終やといひ此邊を指
さしあり歌のいこの關を紙で括めて人々
系一海人も此を言れてハも此をいひたるこ
ゝれバ知れずも知れぬも何れ迄も雨あつて
の縁あり

風澤亭

中孚ハ感ハ化すハ義ありハ則ち寄
合言たり故ハ聲を聞て多形を
初めのを聞ても通ずらん○替姻吉あり○疾病
海裏りや○失物中ぎんじや○言○侍人等
○方角を南とれハ坤なり

参議堂

わいのさやーまふくあま
人々けけちあまの舟

飛ちつゝ遠の國へ飛ちつゝ津の玉露波は
浦を船で舟の舟うてわいのさやといふ海のみ
うれしうあやうまといふ舟の舟
まあり歌のい此海を言れ海路を言れ
わいのさやといふ舟の舟
の舟うてわいのさやといふ舟の舟
ひなり

1. The first line of the document is a header, likely indicating the page number or chapter.

くはふびぎ
火水未濟

慮しりへ任にせざらん言いはり故ゆへに仰おほぐやも
ま涙なみだは其その熱あつせざる氣きなれど則すなはち思

急いそぐハ、あまにさかむめ花はなのうゝきもひんおろくさ
○婿むこ姫ぎみ宜よろしかゞん ○失物うせもの出でる ○疾ヤシ病サウ凶しやうあり ○待まち人ひと
あることあり ○方角ほうかくをまじへる八南はつなんといふ

僧止遍昭

あまのうき雲のうきちり

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

編^{へん} 俗^{ぞく} 神^{しん} の^の ま^ま 中^{ちゆう} ま^ま の^の 五^ご 節^{せつ} の^の 舞^{まい} 姫^{ひめ} を^を 見^み たり
と^と 冬^{ふゆ} の^の 歌^{うた} あり^{あり} ず^ず 中^{ちゆう} ま^ま の^の 舞^{まい} 姫^{ひめ} の^の ま^ま 天^{てん} 上^{じやう} へ^へ 参^{まゐ} 上^{じやう} へ^へ

とて^{おも}て^まし^つ風雲のうらみぢ^ふく^くと^く上^うのこ^こは^は一^い言^ご
 け^け一^い言^ご唯^{ただ}を^を天女^{てんむ}う^うえ^えり^りて^て涙^{なみ}かり^{かり}雪^{ゆき}お^おく^くとい^い
 ぢ^ぢとい^い天^{てん}上^{じやう}の^のこ^こち^ちを^をふ^ふべ^べ一^い歌^かの^のん^んハ^ハ未^ま通^と女^めが^が返^へる^るを^を
 上^うれ^れ及^{およ}び^び以^{もつ}風^{ふう}の^のこ^こち^ち塞^{ふさ}み^みあ^あを^を此^こ種^{しゆ}あ^あを^を後^ごを^を今^{いま}あ^あを^を
 そ^そう^う止^とめ^めえ^えち^ち月^{げつ}ふ^ふと^と舞^ま曲^{きよく}の^の終^はる^るを^を秋^{あき}の^のを^をい^いて^て
 かり

風天小畜

失^あ出^でぐー ○ 疾^や病^び変^へらる ○ 待^{まち}人^{ひと}あ^ある ○ 方^かぐを
 歩^あ中^{ちゆう}途^とる ○ 一^{ひと}苦^くむ ○ 替^か姻^{いん}込^こる ○ 貴^う

雷とんハ異なり

陽成院

はくもこの噂より居るこれの所

こひうつりさるる所とてなりぬ

はくぞねこれの川とて常流の曲の名ありと
御歌のふ集は山の噂より所れ居る所
水うつりうつり此れ川とてさるる世を
うみ人あれはさるる世をさるるつりて今
人を憐れむはるる所に御歌あり
則とい水の源をさるる世の所なり



乾为天

乾ハ乾れ通ずの義ありハ則ち憐れ
くさるる故に其の所より九とつ
のつりものも乾とて〇普に乾とて〇大物
を乾とて〇病氣とて〇待人遅と
方角を乾とて〇良あり

河原左大臣

津奥のふもちまり強ゆる

昔昔ハ志のふ州とて居る草もふすつて布
つりふを強とてこれをもぢづつと〇奥の信

然一愚つゝく撥ずるに君がとんとハ我とあり
ぎううく公のりゆをすゝ利なりんう御歌のハ
只神ハ雪の降あぐわうなを招ハ松のぶきを
あふん公のりまをすゝりておこしなりとのりあ
り一後ゆのうぐえを後のと

坤為地 坤ハ地鳴ふの義ありハ則ち堅く
意たり重く凝うとす厚く

○婚姻障多一○失物るく一○疾病一○
待人多一○方角をあるハ乾あり

中納言行平

たりあきつなその山乃 吟一

きうはつゝあうりあひ

り予周懐守に任ずる彼ふに往く一系と出

きうばくハ後懐きけをくそなり最のんハ

くちふれ周懐のふつりて男子ともの役

めく教百里をきを役ふくすこと常ありハ

意とあふれとあめての人情ハ後がてた

又仕るるふく月を後とものけを

きくありふくれと年月の後ハとやれ

の

鄧
氏
金

火山旅

暮

にものを寄^{よう}やうに○肴^{えんご}姻^{いん}ふん^ん○

失物

急きふにさかぬる○疾やまひ病びょうよりいかはくは○待まち人ひと

本

○方角を命^{めい}ずハ南と称^{なづ}す

在京業平朝卡

午

丁巳仲代也 寺後就因河

1

紅
子

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

五
田

月よりさき流るるをうけ
し屏風

[illegible][illegible]

風火家

家人ハ嚴重の義ふれハ則ち窮屈
の意に成テ故テ^{そつち}放逸を禁^{きん}め^い自他^いを

一のすゝい志すのありふゆ 旅のい志を
 一なりも遠ふるも解あだんものせゆ
 一あもあも只あひ清くまゝくは世をこ
 一とものこゝろなり

兄為澤 兄ハ夢母一疑ハ无の義あれハ則
 一清くあたり故一介情る終

一〇疾病重一〇待人速くあゝ〇方角を
 一〇ハ南と北

元良親王

一いぬきそつとて用一なうはれ
 一張はり一もあそむうたりふ

一我はり一ハ水中一水居枕のこゝろ見を
 一歌をいふうけいひ一うり歌のいこゝろあ
 一それ一是解の解一うけいひ一うり歌のいこゝろあ
 一めをこゝろ一何さう怪せんやれ一うり歌のいこゝろあ
 一つこゝろあまば上ハ身さう一令さすも遠ん
 一あう一なり

雷風恒 恒ハ不折の義あれハ則一終果す
 一意なり故一あう止まう難く執ん

THE
NEW
AMERICAN
DICTIONARY

風地觀

大江千里

[illegible]

うづひの秋あきうづあふ

月をみよひのなごちとあまのなりとつり歌は
ふ月をふつらあまの心がふつらふけつらと
いの悲ふありぬる世の人をわづらふともう我
みいふに限りたる秋もあはれむともうさう
なり



山火賁

山火賣さんくひ
賣る偏うふふあるは則ち依此よこ
御りけあらう故に慮をめぐり
○婚姻こんいんあらず命いのち ○失物出づた
なんぞだとも

晉書

管家

あつゝいゝめきとうあて手廻り

のちろの
海^{うみ}
のまゝ

幣ぬさに旅ゆかりり人小く却またて終はつをちて旅中
う種ぐみをまつてもわう歌のハきいし師幸しあきの位ぐ
なまゝにんぞ〜ぬきお用忘もちわすもされて此千回このちまわり
山の井へちぢけの幣ぬさしそのりもぢけ錦にしず乃やう
ふを此候いまぬきして是それとて〜あり

風雷益

益ハ多クとも元の義あれハ則チ強
テ動シとも公セザル意あり故ニ思

惟^{たゞ}ユ夫^こをこゝに^{こゝ}又^{また}ぞ^{また}自^{みづか}熟^{じやく}を^を得^える^ると^と標^{めい}一^{いつ}ろ
 らん^{らん}と^とす^す○婿^{むこ}姻^{いん}調^{てう}ひ^ひ並^{なら}ふ^ふなり^{なり}○失^{うし}物^{もの}な^なう^うべ^べ
 ○疾^や病^{びやう}養^{やう}生^{せい}大^{だい}坊^{ぼう}と^とす^すだ^だ○待^{まち}人^{ひと}急^{いそ}ぐ^ぐあ^あど^どと^と知^し
 べ^べ○方^{ほう}角^{かく}を^をあ^あら^らわ^わ乾^{かん}なり^{なり}

三條右大臣

きねうづうい 告衆とつさくけさるなりあふての

THE **NEW**

AMERICAN **REPUBLICAN**

PARTY **OF**

THE **UNITED STATES**

OF AMERICA **AND**

THE **WORLD**

大壯 正
急 動

貞信公

ふ花のゆきまぐさむ

をぐ山時さんねのめちちあふふぶううくひひなり



山地剝

剝、逆礼、遇の善あれ、即ち難を凌ぐ意なり故、そのむ、羊を以て禱す、
○婚姻、
○疾病、
○失物、
○待人、
○方角、

中納言兼輔

みこのさうさう、
つぎ、
つぎ、
つぎ、

泉、
つぎ、
つぎ、
つぎ、



雷水解

解、
○病氣、
○遺失、
○待人、
○方角、

○病氣、
○遺失、
○待人、
○方角、

乾
ふく

源宗于朝臣

やうきしとくぬう林さまじつる春

人月も草うゆぬとけり一と

歌のい山里つものかれども春秋の
ろと花やうきしとくぬう林さまじつる春
よのうきとくぬう林さまじつる春
うけりていまれいふ人月も草うゆぬと
えいふうきとくぬう林さまじつる春
とあり

二八

二九



巽為風

巽ハ風ハ心ハ善ハ人ハ剛ハ
意ハ故ハ視ハ志ハ命ハ
とあり○待人ハ方角ハ北ハ
とあり○疾病ハ遺失ハ出

元河内躬恒

あゝあゝにわをん神たれ
あゝあゝにわをん神たれ

あゝあゝにわをん神たれ
あゝあゝにわをん神たれ

廿二

ふりふれど神の機をうらに
いふもえまうひいひきう
なりとれり



地澤臨

見合ふ意なり故に
一見まふをうらに
〇疾病を患なり
〇失物なり
〇方角を南とれ
〇方角を南とれ

主生忠岑

はるあめのつき

三〇

歌

歌の心有月
是はうら
はるあめのつき
〇失物なり
〇失物なり
〇失物なり



震為雷

震は雷なり
〇失物なり
〇失物なり
〇失物なり
〇失物なり
〇失物なり

金

坡上
是則

今
此
さ
ふ
り
き

にはばしきい 朝風^{あさかぜ}とらそくうつひなうり
 りつそく夜^よの明^{あけ}の^{しん}分のそそにまなせう 歌^{うた}
 の心^{こころ}にあそこのきど明^{あけ}それきんぞうに^{こころ}なる
 千^ちの^う明^{あけ}の月^{つき}乃きあふくそゆはなはたきう
 うそり^い居^あきうう後^{のち}うたうの^さ甲^かれ
 雪^{ゆき}ううううううう

RESEARCH

地山謙

僞いつはりハたゞ敬うやまつテも敬うやまつテものまじ業わざあれバ則すなはチい志こころ
 厭いとムう意いアリ故ゆゑニ名譽なよぶヲも功績こうせき

石^{いし}ち^ぢこれ^{こゝろ}賞^{あづか}美^みせ^う何^{なん}も^もに^ん
 ○疾^{やまひ}病^{びょう}登^{のぼ}る^{りゆう}の^い云^{いふ}○突^{うち}物^{ぶつ}出^でる^{もの}○待^{まち}人^{ひと}候^{こう}ら^へに^{こゝろ}○
 方^{あた}角^{かく}を^{さむ}申^{まを}は^す南^{みなみ}あ^うる^{なり}

春道引樹

や
河
風
の
け
こ
ろ
こ
ろ
こ
ろ

ざゝ争も あつぬ りもろりりりり
 綱み 門かど 戸かど 杭かど まうちう 牛うし 衆しゆ ぶとを うゝわ
 けく 水みづ 勢せい まうて 利よとい 名な まう 一のれり 衆しゆ のい

山ノのりききく風ちうくあけふ掛
くあーぐみく略せく我々の体うらで
ながれもやうぬりちやーづみくく
となり

山澤損

抜ハ市倉のきあれ財ち簡畧の
意ちり故う勢多きけ富貴を欲
まむくん ○ 替烟宜 ○ 病氣将一ちいゝ虚病
○ 矢物ちぬ ○ 待人実意 ○ 方角を角い
坤

紀友則

久がのいうきけまそあのり
はんね 死れちうくむ

きんねくハ静あんなてり歌のん
ちうれきく光くくてりね乃ど
あきちりね何く静あんなく
くくも絶間あませちうくちのち
高んとなり

巽為風

巽一入のきかん具ち隙隙
あきの意ちり故ーう後く拒
満つんさく泥くさく无く ○ 替烟ハ巽

三四

藤原興風

滋シ奴ヌもーくうん 高タカ砂サ也
 柳ヤナギもきうー乃ノもきうぬー
 此コノ歌カうす所ところ々々山さんのな名なうて名な所ところのなこ
 まいあふとなく歌うたあなんな家いえ子こ年とし老おいとあな、年
 ぐのの友ともきうぬきうぬきうきう生せい死しんんうう任にんママ後
 今いまのの後ごきうああ友ともとてや久くきうのの乃のと

いふはちうかうゆけ松かたども　是こそな　我れ
よりなう　後^{いぢ}う生^{うま}ぐ　うまも　けうく　む　う
乃^の　あてを　せ　う　あり

火水未濟

[illegible]

通せやうて花を失ふといふ○督姻成るうづに
○病氣癆のさぐひ○失物おそくさうぞう○待人ハ
来るは○方角を尋ねはゆゑん

紀貫之

[illegible]

花うむりお香るほひ斗る
 貴之月毎長唇の親世音るあでれくき
 つかも常きるおありく久しゆのぞほく
 て後すこ常れくきバ病坊れきうえよ
 親家ちりて愛しこくきよ久しやとせ
 玉とさりいおをん遠けういかなう
 そしきうをそくに極る梅の枝をれきよ
 るありきりといちり常り列座乃おき
 一く細り歌のんりこの常れまのんあや
 かきくはやいたねも家のもきおれこ
 此

むめめろのむりうきうき
 一きりなり



雷天大壮

大壮正しく勃くの義ありが創ち
 遠れあり意り故に治定し
 一おく極るけりのよ強きとて
 〇病氣あき症なり
 〇失物あて
 〇待人来
 〇方角を指しハ南と

清原深谷

夏乃夜をきき青月
 雲のつりこよ月や
 明ぬを
 む

宵^よ 影^{かげ} ぐとハよのまゝハ何^{なん}なりやのつこ
 とハ雪^{ゆき} ぐとこゝとつこもぬり 歎^う のんハ夏^{なつ} の
 夜^よ の月^{つき} ぐと ありこゝを^を ぐとてや世^せ 間^{かん} ハ
 ぐと宵^よ のぐとれのみゝゆゑにや夜^よ の明^{あけ} める
 ちてても短^{みづか} く移^{うつ} り易^{やす} き夜^よ ありんぐれを^を 申^{まう}
 月^{つき} ハ西^あ へ入^い ちてゝ写^{うつ} ち有^あ りまひハ雪^{ゆき} 乃^も ぐとノイ
 やどんぐ 影^{かげ} をうてやちむとあり

離為火

離リ為ハ火カ 離リハと云ふ麗ハの美ミあはれが燃もちつは
なきて移うつりゑたり故ゆゑに更さらふと云ふ
はと云ふは随したがふ或あるは来きたりてあはれむ西よしよりが

でしゝ常じょう開ひらななししととんん○替か婚こん野のかかううだだつつ疾やく病びやうハ
急きう変へんちちりり○失うし物もの主のち而よ室さうちちううだだ○待まち人ひと迷まよははりりてて遲おそ
一〇方はう角かくををちちろろんんハハ野のかかううだだつつ

文屋朝康

志く^つ 疾く^ふ 風^ふ 乃^{すなは} ち^て 疾く^ふ 秋^{あき} の 望^{のぞ} みを
はく^く ちき^き と^と ぬ^ぬ 玉^{たま} ち^ち あり^り

つぎ~~~~~
歌のなり風(ふう)れあき〜れハ玉(たま)あけを涙(なみだ)の草(くさ)葉(は)
↑ほ〜〜あき〜〜あき〜〜ち〜〜なるも花(はな)ありにいま
去るを涙(なみだ)のぬり〜と上(うへ)を風(ふう)の吹(ふき)きき木(き)乃(のみ)燈(とう)

○侍人あまぐー○方角をあらわし西なり

赤議等

あちちなりをのーし京志のうきー

あまーしーなとー人○急ーき

あぢうーしー芽花のきくせーしーをうきなりを
りーの糸ーしー條おせーしー世なりあふーしー
らーしー此二句ーしーのあふーしーあつーしーおん序
なり歌せんーしー人ぬきーしーのふーしーんがけひ
らうてかれあーしーあふーしーまーしーしーしーしー
しーしーしーしーしーしー



火地晋

晋ハ明章の遇のきかん、即ち陽密

あまふしーしー改りーしー庸れーしーしーしー○替烟軍
かーしー○疾病外見よりしーしーしー○失物づ
○侍人あまぐー○方角をあらわし良あふー

平魚盛

あふーしーしーしーしーしーしーしーしーしー

あふーしーしーしーしーしーしーしーしーしー

あふーしーしーしーしーしーしーしーしーしー
死すしーしーしーしーしーしーしーしーしー

A series of seven horizontal strips, each showing a different stage of a chemical reaction. The strips are arranged vertically, showing the progression of a reaction, likely the formation of a precipitate, over time. The strips show varying amounts of a dark, granular substance (precipitate) forming on a lighter background.

腹^{はら}に理^{ことわり}を正^{ただ}しね義^ぎある^{なり}、則^{すなは}ち外^{ぐわい}念^{ねん}發^{はつ}せざる^{なり}故^{ゆゑ}に機^{うへ}をもあて

壬午忠見

あまふもろ^たふねちんり

人
—
きん
う
おの
い
ゆ
—
う

まいすてふといふをすてふより、まゐれといふ
 やきなり。歌^{うた}のんか恋^{こひ}成^{なり}すてふより、我^{わが}うれ^はる^る速^{はや}
 け^けをれ^をま^まより成^{なり}てふを、世^よに人^{ひと}い^いな^なて^て此^{こゝ}
 こゝに成^{なり}てふより、成^{なり}てあ^あり^りふ^ふ人^{ひと}よ^よさ^さま^まに
 い^いや^やう^うに^に只^{ただ}あ^あり^りふ^ふ人^{ひと}よ^よさ^さま^まに
 拜^{ひつ}あ^あり^りふ^ふ人^{ひと}よ^よさ^さま^まに

10-10-1968	
10-10-1968	
10-10-1968	
10-10-1968	
10-10-1968	
10-10-1968	

火澤睽

あつ
らうとん
○ 督姻 潤いごとく ○ 病症 急病之

○失物速く出る ○待人促り ○方角を寄
きよいふとすなり

清原元輔

安らぎれうみう神祇一はりけ

未乃松山 波こそ

此歌のうらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ

うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ
うらみは女一人のうらみ

澤天

夫、不覺、去の義、かへ、則ち、
乃ち、
替、
人、
○方角を、
南、

中納言敦忠

達、
さう、
の、
さう、

歌、
達、
解、

剛、
か、
其、
さ、
乃、



風水

風、
水、
人、
○方角を、
異、
待、

中納言朝忠

[illegible]

のちいさうに遊あそぶうれを満みちおろしなり
 ありこにいでたそれと教おしえの文ぶん字じうたへ
 嘆なげ息いきの潤うるみ信しんじいといひしり羽はあり
 世よはくでいひあつたてとてとあり
 ばらばら俗ぞくにむねねとてさう教しえりあつ
 かのつねふきにうみ死しをすそけなきも察さつん
 ばうたう死しても逢あうていひもいひなき人の
 かりいほうれをねえねえとて死してあり
 めーいあり
 可まし解とくめはそれ鳴な呼こといふ家けなり

果



雷火豊

豊ほうは幾いくを知しるあれ財さいち見み貫くわんを
 けり故ゆゑ未み前ぜんを察さつし明めいりて変へん
 出でづ○待まち人ひとあはれ○方ほう角かくを面めんふ北きたは
 出でづ○待まち人ひとあはれ○方ほう角かくを面めんふ北きたは

曾根好忠

ゆめは河かを舟ふね人ひとうらをえ
 けりふもね意いの道みちう那な
 ゆめは河かを舟ふね人ひとうらをえ
 けりふもね意いの道みちう那な
 ゆめは河かを舟ふね人ひとうらをえ
 けりふもね意いの道みちう那な

1. 1. The first part of the paper
 2. 2. The second part of the paper
 3. 3. The third part of the paper
 4. 4. The fourth part of the paper
 5. 5. The fifth part of the paper
 6. 6. The sixth part of the paper
 7. 7. The seventh part of the paper
 8. 8. The eighth part of the paper
 9. 9. The ninth part of the paper
 10. 10. The tenth part of the paper

観^{かん}ハ感^{かん}レ^レ仁^にス^ス義^ぎアレ^レバ則^{すなは}チ実^{じつ}情^{じやう}
 也^{なり}報^うコ^こテ意^いハ^ハリ故^{ゆゑ}ハ字^じキ^キヲ考^{かう}リテ

源重之

かせはるゝみ 雲うみのなまなり 井の邊のこ
くくけき のを 枝のふ 源もとう那

序を失ふ事多かるべし
 故に用ひざるを厭ふ

次占卦

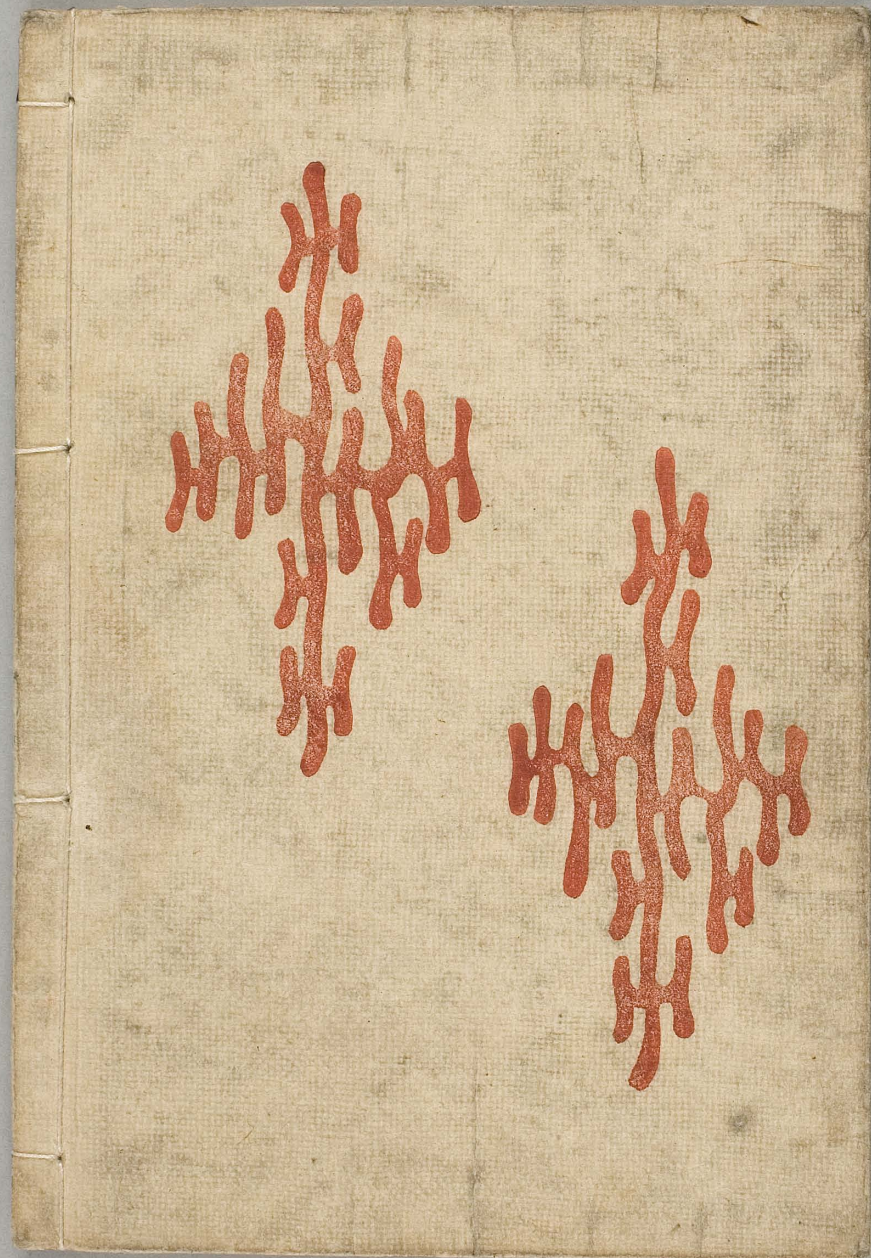
虫いざりー命さ一度遠くの處ハまゝに
久し〜病んと思ふんより遠ぬれ〜
命長けれと願ひありけり今で人の命は
涙くらゐに恋中ハ不思なりとけり

風天小畜

小畜ハ羽を養ふに及ばず其を剥世ニ
おしきりて養ふに及ばず其を剥世ニ

氣平倉の祀ー○失物出づー○待人ありなり○方
角をあらわんハ南をあらわん

百人一首歌占鈔卷之一



花間松濤先生著

夏首歌

全二冊

浪華

花間藏板

